

陽だまり

5月12日

生徒指導通信No.4

先日の全校集会を終えてこれからの学校生活、そして大きな行事を控えた皆さんに考えてほしいことがあります。

「おはよう」で心が動き出す

皆さんは毎朝、どんな気持ちで校門をくぐっていますか。あいさつは、相手の存在を認める「心の握手」です。校長先生は「魔法の言葉」って言っていましたね。元気な声でなくてもかまいません。相手の目を見て、少し会釈をする。それだけで、お互いの心の壁が少しだけ低くなります。あいさつが飛び交う学校は、誰もが「ここにいていいんだ」と思える安心な居場所になります。まずは自分から、小さな一歩を踏み出してみませんか。

「集団生活の真価が問われる学校行事」

まもなく3年生は修学旅行、1年生では転地学習が始まります。日常を離れた場所での学びは、一生の思い出になります。私たちは将来、必ず誰かと関わりながら生きていくことになります。修学旅行や転地学習での集団行動は、まさにその「予行演習」だと思えます。公共の場でのマナー、集団の中での自分の役割、予期せぬトラブルへの対応。これらはすべて教室の机の上だけでは学べない貴重な学びです。

「集団生活＝我慢」と捉えるのではなく、「集団の中でどう自分を活かすか」を考えてほしいです。自分たちの力で規律を守り、最高の思い出を作り上げたとき、皆さんは一回り大きな自信を手にはしているはずです。

「校内の癒しスポット」

最近、図書室前の掲示板に足を止めた人はいますか。図書ボランティアさんが工夫を凝らして作成してくれている掲示物は、先生にとって学校で最も「癒される好きな場所」です。忙しい学校生活の中で、ふと足を止めて眺める数分間、荒れがちな心を穏やかに整えてくれます。殺風景な廊下ではなく、誰かの優しさが形になった掲示物がある。そのことに気付ける「心の余裕」を大切にしたいですね。

行事を成功させる鍵は、特別な準備ではなく「日常の過ごし方」にあります。

気持ちの良いあいさつ、ルールを守る姿勢、そして周りへの感謝の心。

この3つをカバンに詰め込んで、行事へ、そして次のステップへと進んでいきましょう。